

科目区分	専門分野	授業科目	基礎看護学実習Ⅱ
講師名	実習担当者	開講年次	2 年次 第 1 学期
単位数（時間）	2 単位（90 時間）		
目的:看護の対象となる患者及び家族を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、科学的根拠に基づいて看護過程の展開ができる基礎的能力を養う			
目標:1.対象を理解するために必要な情報が収集できる			
2. 情報を解釈・分析し看護上の問題点を明確にすることができる。			
3.対象の看護問題に応じた看護計画が立案できる			
4.看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護実践ができる			
5.対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価ができる			
6.専門用語を用いて記録・報告ができる			
7.相手を尊重する態度で実習に臨むことができる-			
8.自己研鑽し、自主的に学習する姿勢を身につけることができる			
授 業 内 容			
1. 対象を理解するために必要な情報収集			
1)情報源			
2)収集方法(1)観察(フィジカルイグザミネーション) (2)コミュニケーション			
3)情報の種類と分類・時期			
(1)情報の種類 主観的データ(S)客観的データ(O)			
(2)情報の分類 ①アセスメントの枠組み(ゴードン:機能的健康パターン)			
4)情報の時期			
(1)経過の段階・種類			
2. 情報を分析し、看護上の問題点を明確化			
1)情報の整理・分析			
(1)現状の把握 ①情報の整理			
(2)現状を引き起こしている原因の分析 ①健康逸脱の有無と解釈 ②強みの把握			
2)成り行きの推論・判断			
3)看護の必要性			
4)全体像の把握			
(1)情報と情報との関連性 (2)領域間の同一情報の総合			
5)看護上の問題			
(1)実在型 (2)リスク型			
6)優先度の判断			
(1)生命の維持に関連すること (2)緊急性が高いこと (3)苦痛に感じていること (4)価値観による			
3. 対象の看護問題に応じた看護計画の立案			
1)目標設定			
(1)長期目標・短期目標の設定 (2)対象を主語にした目標設定 (3)具体的に観察でき測定可能な目標			
2)計画			
(1)観察計画・ケア計画・教育計画			

(2)安全・安楽・自立性の考慮 (3)具体的に4W1Hで表現 4. 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護実践 1)対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助の実施 2)対象の反応を確認しながらの実施 3)援助技術の安全性・安楽性・自立性の原則に基づいた実施 4)日常生活援助の内容 (1)食事の援助 (2)排泄の援助 (3)清潔の援助 (4)環境への援助 (5)移動・移送への援助 5)精神的、社会的側面への援助 (1)不安の緩和 (2)社会的役割、家族を考慮した関わり (3)家族への配慮 5. 対象の反応をもとに実施した看護の振り返り、評価 1)実施の評価 (1)実施可能かどうかの判断 (2)実施前の計画の見直し(追加修正) (3)対象の反応の観察 (4)安全・安楽・自立性の考慮 (5)プライバシーの保護(倫理的配慮) (6)目標達成の有無と判断 2)目標の達成度の評価 (1)目標達成の状況 (2)評価レベル (3)目標達成または、目標達成に至らなかった状況の考察 3)追加・修正 (1)新たな情報の追加 (2)新たな看護上の問題の追加 (3)短期目標・長期目標の修正 (4)具体策の修正 6. 対象を尊重した態度 1)対象を尊重する態度 2)主体的な学習 3)チームワーク 4)医療安全に対する配慮 5)自己の看護観を明確化			
授業方法	臨地実習	実習場所	浜田医療センター
評価方法	*以下の内容を実習評価表(100点)に沿って評価を行う 患者理解・看護実践・実習態度・実習記録・出席状況		
備考	関連科目で用いたテキストを活用する。実習要項で提示された事前学習をする。 【関連科目】 人体形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、微生物学、病理学総論、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、栄養学、薬理学総論・各論、治療論、看護学概論、共通基本技術、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、診療の補助技術、臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論・老年看護学概論		